



大好きな吉野家の牛丼が、米国のBSE(牛海綿状脳症＝狂牛病)の影響で、ついに先週販売休止状態になってしまった……。

その様子が全国ニュースで何度も流されていたのを見ていて、この意味ってなんなのだろうかと考えた。

- ・動物の病気の恐ろしさを訴えている？
- ・米国の検査体制の批判？
- ・牛丼屋の対応？ 等々。

### ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

いろいろあるのだから、日本は食糧自給率の問題を考えないといけないと思う。日本の食糧自給率はたったの40%と言われている。だから、牛肉だけでなく、鶏肉や豚肉、牛肉だけでなく、タイと中国の輸入停止がなされると、私たちの台所にまでおおよく影響が及んでしまった。

## 牛丼が食べたい！

助成金が行政から支給され、でも太刀打ちできず運営難になっているところが多い。さらに厳しい労働環境や後継者問題もあり、酪農家の将来は明るいとはいえない。やめたくても転売するにも場所が居住区から離

場におかれる可能性がある。単純に資本主義の原理と云ってしまえば、経営が成り立たなければ淘汰されるのが筋である。ただ、この問題はそれだけでは済まされない。今回の病気

になっている。しかし、自立した運営と支援との取りは難しく、有効な解決策はなかなか見えないようである。行政だけでなく酪農家や組合もこれまでのやり方を変え、インターネットをうまく利用するなど、個性を持って、独自の道を探り、積極的に自主運営をしていかなければならない。そして私たちも景気が不透明の昨今、貴重な税金の酪農への使途をしっかりと見定める必要がある。

牛丼の販売休止ニュースは、日本の食糧現状を考える意外に大きなシグナルなのかもしれない。